



2016年4月19日

## 英国の FinTech 推進の取り組み:Sandbox

公益財団法人 国際通貨研究所  
開発経済調査部 研究員 五味佑子

2014年10月、英国のFCA（金融行為規制機構）はProject Innovateという取り組みを開始した。これは、消費者の利益となるイノベーションの促進及び創造的破壊を通じた競争促進を目的としたもので、企業が提案する革新的ビジネスに対し規制の観点からフィードバックを迅速に行うこと、イノベーションの妨げになる構造的な課題に対処することを柱としている。2016年4月のFCAの資料<sup>1</sup>によれば、これまで200社以上の企業にサポートが実施された。同年5月には、この取り組みの一環で、Regulatory Sandbox（規制の砂箱、以下Sandbox）という「通常の金融規制の影響を直ちに受けることなく、革新的な商品やサービスなどをテストできる環境」の導入が予定されている。2015年11月のFCAのレポート<sup>2</sup>では、Sandboxを活用できる例として、ロボアドバイザー（自動投資助言サービス）のアルゴリズム検証を挙げている。テスト環境であるため、アドバイス発行後金融取引が実行される前に、金融の専門家が当該アドバイスをレビューすることができる。また、ロボアドバイザーを提供する企業にとっては、発行したアドバイスに対して、消費者がどう対応するのかを検証できるという利点がある。

Sandboxは、規制の不確実性によりイノベーションが抑制されるリスクに対処するもので、テスト参加に必要な要件を満たすと認定されれば、現在FCAに認可されていない企業でも応募できる。FCA認可企業も含め、Sandboxに参加する企業には、提案内容が真のイノベーションといえるか、消費者の利益に資するか、イギリス金融市場にとって意義のあるものか、テストが本当に必要でその準備が整っているか、といった基準を満たすことが求められる。また、FCA認可企業に対しては、テスト内容に関するFCAの規制解釈を通知する予定である。このように、イノベーションに対して門戸を広げつつ、実際の規制が存在する環境での商品リリースをしやすくする工夫がなされている。

シンガポールでも、MAS（シンガポール金融管理局）が2016年5月にFinTechを推進する機能を立ち上げる予定で、Sandboxの導入を検討している。今後他国でも同様の検討がなされることが予想される。前述のFCAの資料によれば、Sandbox導入にあたっては、既存の規制枠組みが存在する中でのSandboxの位置付け、企業がテストを実施することによる消費者へのリスク移転防止が重要な課題であるとしている。また、企業

<sup>1</sup> <https://www.fca.org.uk/news/innovate-finance-global-summit>

<sup>2</sup> <https://www.fca.org.uk/your-fca/documents/regulatory-sandbox>

の募集は2017年1月までに試験的に2回予定しているが、FCAは企業ごとに個別対応するため、合格する企業は少数にとどまる見通しである。イノベーションを推進しつつも、金融システムの安定、金融サービスの受益者である消費者保護を堅持するためには、このようなきめ細やかな対応が一層必要になっていくと考えられる。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。